

概要

本資料はSpeedikitLiteで取込む出荷梱包データの概要を解説します。

事前準備

出荷梱包紐付け有り入出力レイアウト: B0004_出荷梱包紐付け有_1.3.pdf

※以降、梱包入出力レイアウトとします。

作成ルール

(1)1レコード毎のルール

SpeedikitLiteにて、出荷梱包の入力CSVを作成する際には、ルールがあります。そのルールに関して、梱包入出力レイアウトに記載されている事を入力CSVのイメージと合わせて解説します。下記太枠を参照下さい。※下記は、梱包入出力レイアウト を一部抜粋したものです。

流通BMS XML構造	
①SBDH	
②メッセージ情報	
③発注ヘッダー(取引先)	↓ 繰返し
④発注ヘッダー(発注者)	↓ 繰返し
⑤梱包内容	↓ 繰返し
⑥明細	↓ 繰返し
⑦ITF情報	↓ 繰返し
⑧欠品情報	↓ 繰返し

※⑤梱包内容(+⑥明細)、⑦ITF情報、⑧欠品情報を設定する場合は下記留意事項に注意して下さい。

- ◆1レコード毎に⑤(+⑥)、⑦、⑧のいずれか1つに有効値を設定します。
例)⑤(+⑥)を設定した同一レコード内に、⑦及び⑧を設定することはできません。
- ◆1レコード「151」の項目数を構成する必要があるため、有効値を設定しない項目にも、Null値(カンマのみ)を設定する必要があります。
- ◆設定を有効にした場合のみ必須となる項目を、「0」(必須欄)で示しています。
例)⑧を設定した場合、⑧欠品情報の項目内の「0」は必須ですが、⑤(+⑥)、⑦は設定不要です。

<①SBDH> <③発注ヘッダー(取引先)> <④発注ヘッダー(発注者)> <⑤梱包内容> <⑥明細> <⑦ITF情報> <⑧欠品情報>

値が変わるまで繰り返す

⑤+⑥or⑦or⑧のいずれかを設定する。

※⑤+⑥を利用する場合、⑤、⑥の項目の0(白丸)は必須項目となる。
※⑤+⑥を利用する場合、⑦と⑧はNULL値(カンマのみ)で設定する。

151項目

※Null値(カンマのみ)の補足説明

出荷梱包データは、151項目を設定する必要があります。Null値を設定するには、CSVの区切り文字のカンマ文字を連続で設定します。

以下、10番目の項目にNull値を設定する例

良い例)

4901810000005,GLN,4900000000016,CODE,1P,xxx,Order,2010-03-20T05:00:00,1,MSG-xxxxx,~

カンマが2個有り、10項目目、値がない事が分かります。

悪い例1)

4901810000005,GLN,4900000000016,CODE,1P,xxx,Order,2010-03-20T05:00:00,1,MSG-xxxxx,~

カンマが1個しかありません。「MSG-xxxxx」が10項目目の認識をします。

悪い例2) ※△半角スペース

4901810000005,GLN,4900000000016,CODE,1P,xxx,Order,2010-03-20T05:00:00,1,△MSG-xxxxx,~

半角・全角スペース・記号にしても、値として認識されてしまいます。

(2)ソートのルール

入力CSVの各レコードにソート順があります。

各レコードを梱包レコード(⑤+⑥)、ITFレコード(⑦)、欠品レコード(⑧)とすると、

①~④レコードの内容が同一の場合、梱包レコード>ITFレコード>欠品レコードの順に作成する必要があります。

悪い例)

1レコード: 梱包レコードを利用

<①SBDH> <③発注ヘッダー(取引先)> <④発注ヘッダー(発注者)> <⑤梱包内容> <⑥明細> <⑦ITF情報> <⑧欠品情報>

2レコード: ITFレコード利用

<①SBDH> <③発注ヘッダー(取引先)> <④発注ヘッダー(発注者)> <⑤梱包内容> <⑥明細> <⑦ITF情報> <⑧欠品情報>

3レコード: 欠品レコード利用

<①SBDH> <③発注ヘッダー(取引先)> <④発注ヘッダー(発注者)> <⑤梱包内容> <⑥明細> <⑦ITF情報> <⑧欠品情報>

4レコード: 梱包レコード

<①SBDH> <③発注ヘッダー(取引先)> <④発注ヘッダー(発注者)> <⑤梱包内容> <⑥明細> <⑦ITF情報> <⑧欠品情報>

※1~3のレコードと①~④の値が同一で、さらに梱包の内容のレコードを入力。

この場合、4レコードは、2レコード目に設定する必要があります。

梱包パターン解説

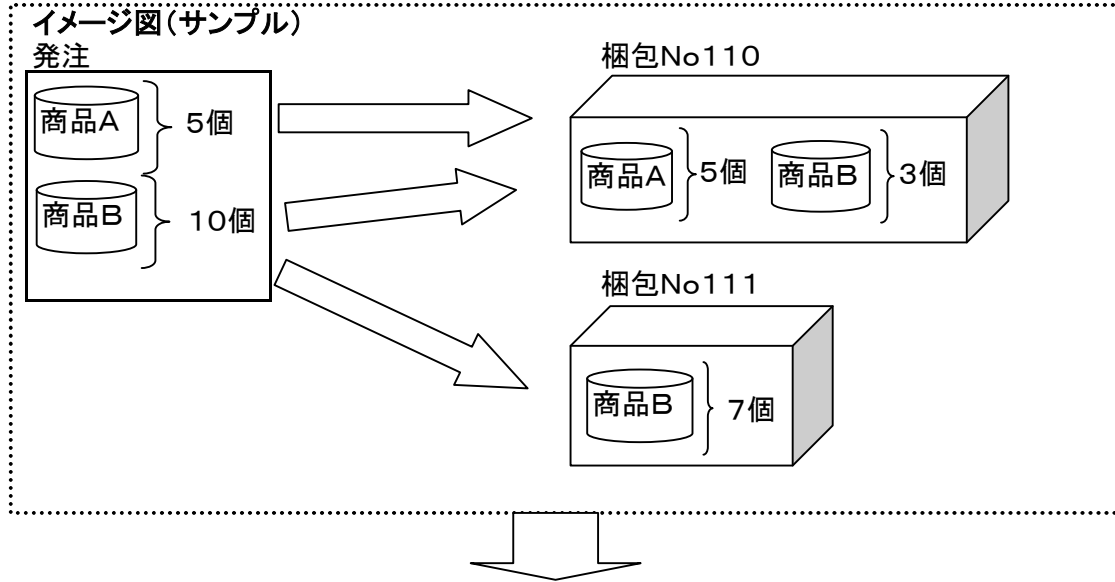
・発注数をすべて出荷可能な場合

サンプル

商品Aの発注数5個、商品Bの発注数10個

商品Aを5個、商品Bを3個、梱包No110の箱に詰める。

商品Bを7個、梱包No111の箱に詰める。



1レコード: 梱包レコード

<①SBDH> <③発注ヘッダー(取引先)> <④発注ヘッダー(発注者)> <⑤梱包内容> <⑥明細> <⑦ITF情報> <⑧欠品情報>

各項目の情報を入力します。

⑤に梱包No110の情報を入力します。
⑥に商品Aの情報を入力します。
⑦と⑧は入力値なしでカンマで項目を構成します。

2レコード: 梱包レコード

<①SBDH> <③発注ヘッダー(取引先)> <④発注ヘッダー(発注者)> <⑤梱包内容> <⑥明細> <⑦ITF情報> <⑧欠品情報>

各項目の情報を入力します。

⑤に梱包No110の情報を入力します。
⑥に商品Bの情報を入力します。
⑦と⑧は入力値なしでカンマで項目を構成します。

3レコード: 梱包レコード

<①SBDH> <③発注ヘッダー(取引先)> <④発注ヘッダー(発注者)> <⑤梱包内容> <⑥明細> <⑦ITF情報> <⑧欠品情報>

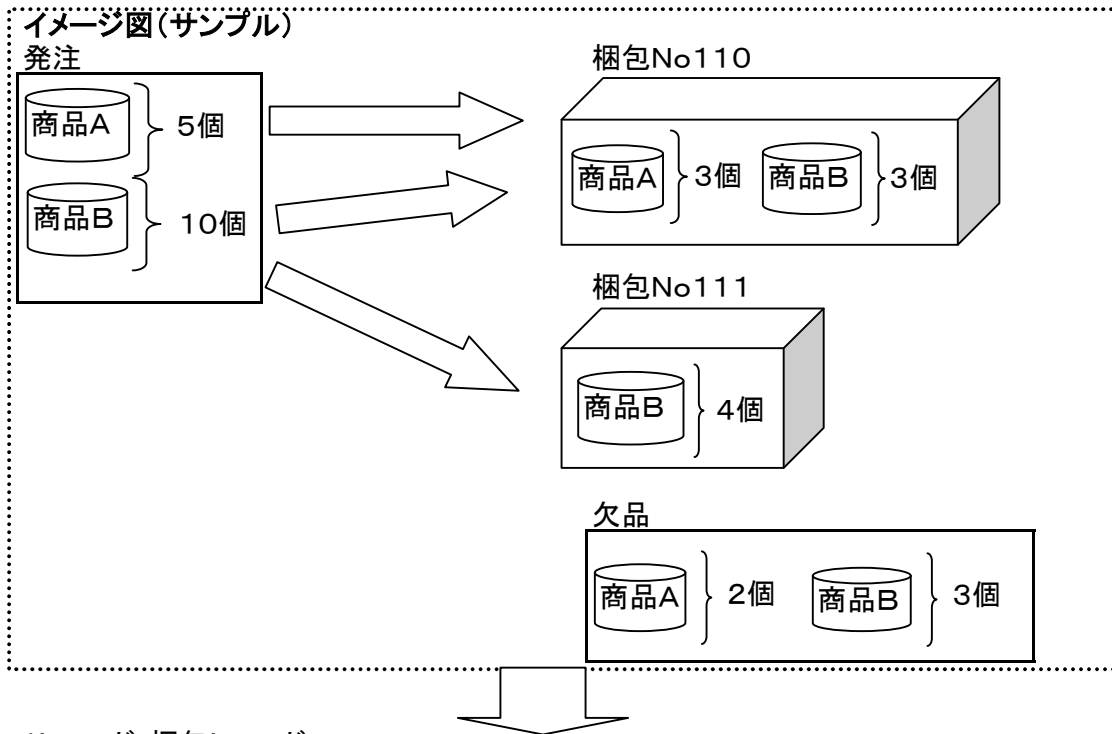
各項目の情報を入力します。

⑤に梱包No111の情報を入力します。
⑥に商品Bの情報を入力します。
⑦と⑧は入力値なしでカンマで項目を構成します。

・発注数に対して出荷可能な分と不可能な分がある場合（一部欠品）

サンプル

商品Aの発注数5個、商品Bの発注数10個
 商品Aを3個、商品Bを3個、梱包No110の箱に詰める。
 商品Bを4個、梱包No111の箱に詰める。
 ※商品Aは2個の欠品、商品Bは3個の欠品
 ※梱包No110と梱包No111、共に納品先は同一とします。



1レコード: 梱包レコード

<①SBDH> <③発注ヘッダー(取引先)> <④発注ヘッダー(発注者)> <⑤梱包内容> <⑥明細> <⑦ITF情報> <⑧欠品情報>

各項目の情報を入力します。

⑤に梱包No110の情報を入力します。
 ⑥に商品Aの情報を入力します。
 ⑦と⑧は入力値なしでカンマで項目を構成します。

2レコード: 梱包レコード

<①SBDH> <③発注ヘッダー(取引先)> <④発注ヘッダー(発注者)> <⑤梱包内容> <⑥明細> <⑦ITF情報> <⑧欠品情報>

各項目の情報を入力します。

⑤に梱包No110の情報を入力します。
 ⑥に商品Bの情報を入力します。
 ⑦と⑧は入力値なしでカンマで項目を構成します。

3レコード: 梱包レコード

<①SBDH> <③発注ヘッダー(取引先)> <④発注ヘッダー(発注者)> <⑤梱包内容> <⑥明細> <⑦ITF情報> <⑧欠品情報>

各項目の情報を入力します。

⑤に梱包No111の情報を入力します。
 ⑥に商品Bの情報を入力します。
 ⑦と⑧は入力値なしでカンマで項目を構成します。

4レコード: 欠品レコード

<①SBDH> <③発注ヘッダー(取引先)> <④発注ヘッダー(発注者)> <⑤梱包内容> <⑥明細> <⑦ITF情報> <⑧欠品情報>

各項目の情報を入力します。

⑤+⑥と⑦は入力値なしでカンマで項目を構成します。
 ⑧欠品情報の商品Aに関して入力します。

5レコード: 欠品レコード

<①SBDH> <③発注ヘッダー(取引先)> <④発注ヘッダー(発注者)> <⑤梱包内容> <⑥明細> <⑦ITF情報> <⑧欠品情報>

各項目の情報を入力します。

⑤+⑥と⑦は入力値なしでカンマで項目を構成します。
 ⑧欠品情報の商品Bに関して入力します。

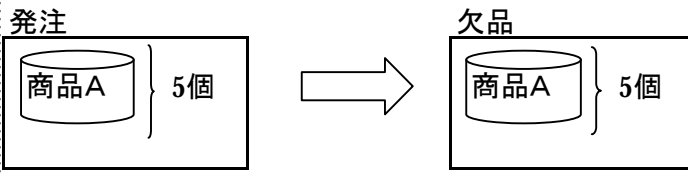
・発注数をすべて出荷不可能な場合(全欠品)

サンプル

商品Aの発注数5個

商品Aが全て欠品

イメージ図(サンプル)



1レコード: 欠品レコード

<①SBDH> <③発注ヘッダー(取引先)> <④発注ヘッダー(発注者)> <⑤梱包内容> <⑥明細> <⑦ITF情報> <⑧欠品情報>

各項目の情報を入力します。

⑤+⑥と⑦は入力値なしでカンマで項目を構成します。

⑧欠品情報の商品Aに関して入力します。